湖月抄

初音

村上文庫

初音　并　細花　以哥并詞為巻名　寄年月とまつよ

ひとれて春の人よりとふ雪のうちのこゝろせよ　詞　なをいまだ日あり

春の又此巻をこゝろ〳〵こゝろとしてみるべきこゝ

ろとあり〳〵べし　元　源氏物語六条の御殿の正月のまとゐ

并のゝ玉鬘の巻　聖（ノヨク）年のまをれば竪（ヲ）年也　盃　細　竪

の年〳〵ゆく年　巻　巻十二月ばかりなるべしとあり〳〵ゆく正月

なり　三条　六条院　住（スミ）わたりてさかりの正月也と見

る説あり　光彼一説の義よりはいづれの説とも分明

なるべしと此説は此巻源氏物語の巻とこゝろ〳〵

并　寄年月　細　正月一日ふ

ゆ　ゆくとしの空よりは

春のこゝろ　元日立春

なり　仲春　立春の

雪　春の雪　名残

ゆく　一夜　立春　立春

春　春　細　六条院

春　春　春　春　春

春　春　春　春　春

春　春　春　春　春

もてあそびたまひけること云みな玄の中くの所為なり第上の宇也ぬ法華三昧よりて
梅の香もこれすの肉れ白ひよりみさきすぐひていろろ仏の　細河ヶ仏佛國八極楽ハ
法華経云栴檀香風悅可衆心
細　前の組よりつゞけて
ちろよ射してそう
ひ信ぬ紫よそ今ち
藤なる氣面半ぬ
しろゆくいろくて面
も可宿ろ白ん
ろくびやろうとて
人のろはくぬど
き猿よはなく行
鳴く　仰上組よいあ
うさろふもてさす
がやもろくよろう
ゆくくろく　作わ紀
人ろよ射くゆく
ろいろう
えぐこめのいそひてを
ろるくもをえ　花　菌固ハ
元三の日ゆうえ　菌ハよ
いひとろう菌固ハよ
ひどうさひろんさう

つき去年よりあさをもそ二の巻よ餅大根橋をりるえ氏餅ハ近江のひきうの餅
と白ゆ一河番嬰し布さんとつゆ
ちしをのうけよろうきまの内　細田春よいわして今年の真中　元河万代を祝よ
そ志と祝ひつくひをの隙よもゆんと
てそうゆろ志ろみをせハは行をしみ
そゆれ　細そゆれハ藏なり河孟日
ゆうろほひきろくし孟　祝飛の女房京源の所おあ思ひ出ゆをりて礼
をもろ祝く
いをちくくるゆ　細源の
ろのそきろうふをん
そくくるゆ恵志しく
ゆりひべきよ河をけ
てろ祝く源の仁恵ゆ
ろゆろり祝日
ろしづきせん　河ろしづき
ハ年紀の祝ろしづ
記神日本紀　言吹日
中祝志　細源よ祝飛の
人ろり源ろのろひひ
の河恵ろ人ゆろ人を源
のろけろふん
ろくそそんゆろ
細花　私の祝ハるれぞ
志をそそいをんとゆろ

引る祝しついをそくるきわざられを
孟源の題いろゆりき祝ろくく
びゆろいをくくろゆりろしづくろのいをひ
ぢぐぢりるぐるるのくろふくくのくろ
みろゆんんりずくろをゆ祝くしづき
をんくくくくひをくるはゆりろ海をと
しのくろぢめれきくのろよくくをまろゆわれん
とゆりひをゆわろ中祝のをんぞれてぞろ
ゆろをどくそ源の新みもくくくひ祝り

孟中将の君よりのひさ
かたをきくに仰られかたの
ことむさ　細　きくに花
里なども秘しをしてわ
ちさこちこあるうちた
まふかりの孟美座
くこのかたれくせなん
細　きくにハ原のあるさ
ちくにへかおちくこと
ちにおくてまくにちち
ちのくこちちちり
仰　家花物語ニ云ハ
よりしかるこにこせな
らせちふ皇子復子ニ奏聞ス
長和三年正月二日于時餅
鏡仰覧是其例也

細　原ちくにと
とちくんと也　孟原
ちくに彩そちくにハ原
しくにとのこにくかの乃
餅くこちくにくにくう
仰イニ世よくりちくこ
こちり藤ちとけ今ちた

つれちこちのの行りいちよりのことと
ちるどゆの西あ　元日の礼ちく　ちのわどいくにまりちく
にて物さいどりちちと夕ひにこれちく
ぐのこむざ　原のく　ちくにくにくに

（詞書）十三日紀元四月子日引小松遣年ノ元文 花 円融院寛和元年二月十三日戊子御幸
紫野ニ立ニ幄屋ニ出ニ形ニ植小松 下畧 今案此形ニ出の小松を植ル也
ひげこひろご 詞 鬚籠 檜破子 花 円融院子日御幸檜破子屋御前ニ云々
久ゝ〳〵ぬ〻ゝの枝 細 雅投ゝ花 ひげこと云ふ物ゝ云ふ也 ひげこの枝よりの巣也
とゝりかよ
詞 拾遺ニ云大君の宮ゝ宮
内ゝ云ふわゝ〳〵ゝ
附大君の出給ふ
ひろ〳〵ゝ
ひろ〳〵ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細 なやけしと八花うえ世うすぐれやぎまきんくくく絵もちのんてこ
づくうくさとくく紫上のこてそりひまのべくくくて源のみ仏のくちつ
乗まうくうくさんくく好撫 白氏文集 太著日 作 花名の花も不可拾

くくくく

ていとうの舞もまた
ぢぐもとおもはれぬべし
花の香さそふ　細考ふ
らん梅の香をさそふ
さを花といひく云
文よ梅とつふ物なり
なり。古今花の香を月
の後よりぞ
を梅とつふべ　細花　花は
物のもとべ
時音よい大貌の例よ
るべしく花の名
とめ一名なめや物の
らべとつふ物なり
但物のもとべ
よつて時の例よ
なし。楽笑の
つふべし
この　細俗ふ
殿呂この殿いもべ
なりさきのあれ
さきの花二枝
さの
つふ

のもとにもこそかり花の香さそふ
夕風のどかなる物なり
らくひとりとそ
物のもとべ
あるいやしく
もしきぐこ
のすがつふ
もなのよ
つまよりやこれく
なりけりこの
なる車の
こぐ

つとりや
さきさく　西朱草　後漢書　福草　月　村種　延喜式　紫草　月　風記　曽祢好忠集　さきさ
草をわるあるよつてと
三枝とあり。
物つぐて　細
みなくこ
こもの中
河　発蓮華経十二天功　観経下品下生　花十　楽の中よ蓮花未開
楽のもと　細
よあり
不見とい
細
世のうき
世のうきめ
いくんよ
きしこ
つまもきん
ほとうこ
ぐんとも
このあんこ

ぐこ　寿月
れど世のう
ずこて
はこそ
こ

ひのうさの人いそのまさごれるくつとめ孟子
のうちのしろがのうさしのぐくりんらうれる
うん人いかうさそのねぐひよきさびはま原の内
心のねぐひよきてくりうきてくりうきてくりう

のとう殿のうちさく

[illegible]

細 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の金風之勘諫院の天元六年男踏歌ありし故人記録をもとめ
西見[illegible]式八西宮[illegible]書[illegible]
[illegible]のこと　左右五位のうちにさし後へし初五日一級[illegible]侍　花慶殿の
対西の対[illegible]のわ　[illegible]水驛を
[illegible]　細[illegible]
[illegible]使の役[illegible]
[illegible]二人は[illegible]
[illegible]驛と[illegible]
[illegible]人の世[illegible]
[illegible]水驛と人の世[illegible]
[illegible]人は男踏歌[illegible]
[illegible]踏歌の人を
[illegible]酒[illegible]
[illegible]を水驛[illegible]
[illegible]
[illegible]

白枝ハ舞人ゆすく是と扱さ舞童ハ緑袍とくくそろ
ぐ一の綿ハ 白 踏平の人以綿遊花差額也号冠巾ゆく 孟綿とせて
ゆてゆく 花西宮拾遺宋拾云冠巾ゆ之六位以綿裏面えく
殿の中務の宮門の左右の石逢 細中務卿宮しるをハ福本なりしくらの二人教歌
花延長七年踏平右衛中務伊衡左歌歌右衛中将實頼右寄頼李王記
以例よりぞくくより 白 竹川ゆ僧石楽居竹川のゆれつめゆゆや花その
よ二月花園はなれとなるてゆれとゆゆゆるてやぐ一ゆぐへて新儀式玉
卿以下勅盃侍臣前雅楽以下行酒三四巡後漸調子唱新川云云
ゆゆ 作 紳をゆゆゆを和さ礼記曲と後り伶楽のゆ拾ゆ云
白 壱八絵よゆゆゆゆゆ孟書花不畫石畫
鳥不畫声 東坡十一李伯
時陽関圖 詩龍眠独識
憨憨処畫出陽関意外
声
ゆのゆゆゆゆゆ
孟元ゆゆせハ柳撫とと
ゆすせて拾ゆ去れみて
ゆこゆゆ 作 虎の内ゆ柳撫
の咲ゆれゆゆゆ孟綿
の孟よゆゆ出とゆゆ

ゆゆ 白 拾ゆ
細 花別勅ゆり拾言ゆ
ゆゆ昔よゆゆゆ
拾言帽ゆゆゆゆゆ
花西宮拾遺云君御巾子
造作山可泰高巾子二月
云云 今楽ゆ巾ゆの冠ハ
巾ゆとゆゆゆ白ゆ衣ハ
ゆて是とゆゆ舞人不
ゆり花とゆゆ舞人ゆ
六位の舞人のゆゆ花
を着と考ゆゆゆれ
ぬゆゆゆにゆて世ゆゆ
れゆゆとハゆゆ花別ゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆのゆゆゆゆゆ
ゆ 花西宮拾遺寄云三
内前二奏書謌云云孟ゆ
ゆゆゆハの拾ゆゆゆゆ
ゆ楽と唱ゆゆ
ゆゆゆゆ 作内裏ゆゆハ
拾式拾ゆゆゆり見花ゆ
ゆゆゆゆハ六ゆ作ゆゆ
の緑のゆゆ花ゆゆを綿

しゆゆゆゆゆゆゆゆ

内裏繁りこれと奉と内侍義人ふ所のてを西よ綿を入てすりてむ
人ぶ歌ハ〻下葉童以上双くよ葉もくみて浄とのりてこの綿をもつく琴引竿
のうゆもくこハ六位義人の鷺中もり移つて庭中もそこれをうてるくこれハ内
裏の次式
中務の多ハ弁のおもい　細　紅梅の大臣也声絃人〻夕雪をかわくの絃く盃日仰中務ハ
夕雪し弁おもいハ桃よ与紅梅の中くそそり
つ〻人の　細　延喜天暦と時代とかりんして世代書かり

中務卿宮　夕雪
御女下　南院の道改道
有職の方とのくさせて
ろくの桜びのくさでと
とびんろもせでとびし
しくろり
身づくれわぐれく
御伊氏の改道を同さど
にくくろくの桜雪
宮どのくゆまくろし
とゆ雪ハくろくよあく
とくくろひくく
桜ちくよハ御実くしさ

さくくやとぐれくくもはうけん
るけぐつすぐハこのぐろれくはえて
もまくくぐりくんく中務宮どをハど
くずくくさかりやけんはちのてんと
るんちひ垂てて宮伊氏のくくれくと
くくくこくりてくくれくと
ひくぐとなはのすくくく風流のくとと
すぐのひをくくむべくれりてく

道ぐくくくとちひくぐ夕雪のてはくくのくとちくつくひちくふとの絃く
めてくくめ　細　人ハ宣法ゆみくくも叶ねくのくくくを花実をれ為ぐてくく
盃あまりよゆ文ゆくして垂涙法ちくを
万春楽　光　西宮抄云踏平日舞人起座唱万春楽云云今案万春楽ハちぐて
八句の詩くれを漢音
よくくひて為ぐくの
わひよ万春楽とゆ
ちく踏奇の舞人の
くくくと為よくを法
氏のくくちぐくくに
ちくくぐくくく二句を
ゆくくり　我皇受祚
億仙齢　万春楽　元正慶
序年光麗　万春楽下略
催馬楽淡海三船撰之
多氏傳之云云　是踏
哥曲也

くくくくよ　細　ちく
ゆりくくくくくくて
くくくよくくくくくつぐひ
ちくくくくくくくくくて
ゆくくくくくくくくくくて
ちくくくくくくくくくくて
ちくくくくくくくくくくて
ちくくくくくくくくくくて
ちくくくくくくくくくくて
ちくくくくくくくくくくて
ちくくくくくくくくくくて
ちくくくくくくくくくくて

万春楽
盃夕雪を垂してくくくくくくくくくく

不審抄に物ゝ人のこゝろ
はかりしるべきもしるべし

八げうをしらべうたう

くるりうるうしや

ゝこゝろ〳〵の後宴　細　踏舞の後宴（ゴエン）よ模（モ）して後の儀なるべし　の踏舞後宴ハ弓箭（ゲキ）
延喜の例西宮抄御式に於番器之儀踏舞後宴ハ三月の弓の儀（ゲキ）とゝ云ふ
それハ四裏にて行ふなり　私の後宴ハ六条院にて行ふなり　つぎにまつりごとの
樂のあるべき事をあらはされども　細　此名を女樂（ガク）とあらはされたるもいとゞ女
ふつゝの業の下よりあり　細　此名を女樂とあらはされたるもいとゞ
てをのゝあるもみゝをとゝろく　細　此名を女樂とあらはされたるもいとゞ
よゝ女樂のゝあるをそ　細　此名を女樂とあらはされたるもいとゞ
ありしとゝ　抄　遠勘行川者よりゝ　抄　遠勘行川者よりゝ
しに女をこゝて　抄　遠勘行川者よりゝ　抄　遠勘行川者よりゝ
御琴を以てゝ　抄　遠勘行川者よりゝ　抄　遠勘行川者よりゝ

琴どものゝ　琴どものゝ　琴どものゝ　琴どものゝ　琴どものゝ　琴どものゝ　琴どものゝ
琴どものゝ　琴どものゝ　琴どものゝ　琴どものゝ　琴どものゝ　琴どものゝ　琴どもの